



# いちいの会 だより

平成28年  
42号

発行/社会福祉法人 いちいの会 <http://www.ichiinokai.com/>

ICHIINOKAI VOL. 42



平成28年5月21日 足利フラワーパークにて



## 家族会職員法人全体会

くすのき苑 副施設長 大谷 篤司

7月30日、ザ・クレストホテル柏にて、家族会職員法人全体会を開催いたしました。

まず、冒頭に児嶋理事長の挨拶の中で、平成28年7月26日未明に起きた、神奈川県「津久井やまゆり園」において、多くの利用者の方が亡くなられ負傷された痛ましい事件について触れられ、出席者全員で黙祷をいたしました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、負傷された方の一刻も早い回復と、事件現場に居合わせた方々の心のケアが進むことを願っております。

津久井やまゆり園において、事件後も目の前にいる利用者の方の生活をそこで支えている職員の心労を考えると、計り知れないものがあり、同じ志を持つ仲間達に心から激励の声を掛けたいと思います。また、法人としても防犯体制を再度見直していくことを早急に検討していきたいと考えています。

研修会では、社会福祉法人菜の花会前保護者会会長篠島治男氏をお招きし、「成年後見の取り組みと課題」について、講演していただきました。いちいの会家族会では以前から成年後見制度の活用が課題とされてきました。昨年度も同研修会の中で、成年後見制度の概要と必要性について、実際の事例を踏まえたディスカッションを行いました。今年はさらに掘り下げ、法人として家族会として何ができるのか考えるため、再度成年後見制度を議題に挙げることにしました。

篠島氏より、保護者会で実際に行なっている、「ライフサポート・やまぼうしの会」の活動内容のお話を頂き、親亡き後も安心して託せる施設を作るために何が必要なのか、親が成年後見になることの課題等、とても身近で現実的な内容で、私達にとって、大変参考になる講演となりました。

しもふさ学園保護者会、菜の花会の皆様、そこに辿りつくまでには非常に沢山のお骨折りをされたことと思います。私達もそこに追いつくことができるよう努めていきたいです。これからも10年、20年、30年と、私達の法人が続いていく限り、家族、職員、地域の方々、沢山の人が利用者の方の暮らしや人生を支えるために近くに寄り添ってまいります。私達が、これからやるべきこと、少し大変な作業になるかもしれませんが、道筋が開けてきたように思いました。

### ●目次●

- ◇家族会職員法人全体会…1
- ◇福祉に従事して、今思うこと・家族会日帰研修…2
- ◇くすのき苑作業班だより…3
- ◇事業所だより・職員日記…4
- ◇行事と旅行 ……5
- ◇行事予定・販売会予定編集後記 ……6

## 『福祉に従事して、今も思うこと…。』

中核地域生活支援センターのだネット 所長 金城 和子

暑い夏が来るたびに、平成 12 年 8 月くすのき苑開所準備のため、職員全員が研修・備品整備で汗をかいたことを思い出します。

私は 10 月の開所と同時に入社し、今年で 16 年目を迎えました。私が保育専門学校に入学したのは 46 年前、学生時代は知的障がい児の施設で直接支援のアルバイトをしていました。洗濯物たたみや 50 人分の布団を敷いて回ったり、風呂の日には寒い冬でも渡り廊下を通り、コンクリートの大風呂に子ども達を送り迎えし、入浴支援をしていました。食事は 100 名が大食堂で摂っていましたが、どんぶりご飯の上に、てんかん等の薬をパラパラとかけていたことにいつも疑問を感じていました。味覚はどうなるの？薬の飲ませ方はこれで良いの？今の福祉施設では到底考えられない事が当たり前のように行われていました。学生の私は正職員に反論できるはずもなく「本当の福祉はこうじゃない！東京に出れば何かが見つかるのでは？」と勇んで上京しました。しかしそんな私に「バリアフリー」と「人権擁護」の言葉が突き刺さってきました。「お世話する側とされる側？そうではない！対等なんだ！」世の中が変わっていく足音をひしひしと感じていました。

今年の 6 月、法人研修会「障がい者支援のありかた」～真の権利擁護を目指して～に於いて弁護士・佐久間水月先生のお話を伺う機会を得ました。先生の仰る「私たちは障害特性や本人の思いを本当に理解できているのか？法的根拠のない支援は無力・独善。虐待の防止・差別禁止 & 合理的配慮の提供」。福祉の現場では日常的に法令の必要が生じているのです。

また先生は、多職種による連携と協働の重要性を述べられました。「社会の中で生きるため・生きるためにつなげていきましょう！つながっていきましょう！」と。まさに千葉県独自の中核地域生活支援センターは「つなげる」を目的に 13 圏域に設置され、当法人は受託して 12 年目を迎えています。「のだネット」は迅速に、その役割を担っているのか？これからも様々な関係機関とつながり、協働して権利侵害へ対応して行かなければなりません。

最後に、法人全体がより良い支援に向かって前進する為の一翼を担いたいと思うと同時に、佐久間先生の「ここぞというところで逃げない職員になってほしい！」の思いと「真の権利擁護」が後進につながっていくように努めて参ります。

## 家族会日帰り研修

家族会副会長 染谷 信一

昨年までの一泊研修に代えて 5 月 31 日に実施された家族会と職員の合同の日帰り研修会に参加しました。

午前中は柏市十余二の社会福祉法人青葉会の施設見学です。この施設は平成 26 年 4 月に都市型生活支援センター「WITH US」を開業、自閉症サポートセンター、作業所や児童発達支援・居宅介護など、障がいのある子どもから大人まで切れ目のない支援をおこなっています。入口にはタイル募金の氏名が記入された木のタイルが何枚も張られていて、木材が多く利用され温かみがあり、防災にも配慮された施設となっています。グループホームなどの部屋は広く明るい部屋で感心しました。

昼食後は利根川の右岸、田園風景に囲まれた我孫子市にあるみどり園の施設見学です。ここは東葛中部地区（柏市、流山市、我孫子市）で設置し、指定管理を社会福祉法人大久保学園が行っています。

建物は平成 25 年建設で新しい施設ですが開園は昭和 57 年で利用者の高齢化が大きな問題になっています。家族会の高齢化の問題もあり、活動として駅から遠く不便である点も考慮しバスを購入し施設に寄付したということを知りました。部屋は大きなユニットに分かれ生活の便利さと共に、見守りの体制に配慮されていると感じました。

今回の視察で流山市、柏市、我孫子市という身近な施設を見学し、各市の障がい者福祉の状況や終了後の懇親会での話し合いを今後の家族会の活動にいかしていければと考えます。次回の研修会には多くの家族会のみなさまの参加をお待ちしています。



## ステップ班

主任作業指導員 伊藤 雅章

私達の所属しているステップ班は、主に自閉傾向のある方を中心に構成された作業班です。その中でも「リサイクル班」「受注班」「課題班」の3つの班に分かれて活動しています。

リサイクル班は保護者や近隣のお店などからいただいていた空き缶・ペットボトルを、中身を洗ったりリブルタブを取ったりつぶしたりして、業者さんに引き取ってもらっています。硬いスチール缶をぺちゃんこにつぶしたり、ペットボトルのラベルをきれいにはがすのを、驚くほど上手に行っています。

受注班はゴム製品からドアレールの部品、箱折りなど、多岐にわたる内職の作業を少人数の精鋭部隊が毎日集中して活動しています。忙しい時期があったりそうでない時もありますが、納品という名のドライブでそれぞれの業者さんに会うのを楽しみにしながら頑張っています。

課題班では自立課題と呼ばれる、職員手作りのパズルや組立て作業を行い、後半は散歩をして活動のメリハリをつけて生活しています。障がい特性の重い方が中心ですが、細かなルールをきっちりと守りながら活動する事で、普段の賑やかさが嘘のように静かに活動しています。

個々の特性を理解しながらそれを生活に組み込んでいくことは、大変な作業ではありますが、少しずつ変わっていく利用者さんを見ていくことに面白みを感じながら活動しています。

## ビリーブ班

主任作業指導員 秋山 直樹

ビリーブ班は現在、男性10名、女性14名で活動しています。上は71歳、下は22歳、平均年齢は44歳程で主に高齢の方や知的、身体に障害のある方が所属しています。

活動の目的は、利用者の方々が作業活動を通してそれぞれのやりがいを見つけ、楽しみを持って取り組めること。また、それがくすのき苑で生活する上での生きがいに繋がることを目指しています。

活動内容は、散歩、製品制作、リハビリの3つを軸に行っています。散歩は、運動不足になりがちであるため、その解消と気分転換を目的としています。利用者の状況に合ったコースを設定し、休憩を取りながら無理なくのんびり楽しく歩いています。製品制作では箸置き、シュシュ等を制作しています。出来たものは販売し、対価として給料を支払い、その給料をもとに買い物に行くという流れを作る事で意欲的に取り組んでもらっています。リハビリは加齢や拘縮等により体の機能が低下することを防ぐことを目的とし、月1回理学療法士に指導して頂く事で利用者の方それぞれにあったメニューを提供しています。リハビリは無理に行っても効果は無いので、メニューをこなす事を第一とはせず、まずは「リハビリは楽しい」と感じてもらうことに重点を置き、楽しい雰囲気を作る事で効果的なリハビリを行っています。

高齢化を止める事は出来ません。年をとっても楽しく健康に過ごせる、そんなくすのき苑を目指して、ビリーブ班は今後も活動していきます。

## 食品加工班

主任作業指導員 大橋 宣彦

くすのき苑食品加工班では、今年度から心機一転ということで、昨年度までパウンドケーキ、クッキーに使用していたマーガリンを濃厚なバターに変えてみました。マーガリン使用の物は、さっぱりした味でしたが、バター使用のものは、後味がしっかりした、濃厚な風味になりました。クッキーの型抜きは多少容易になり、焼いた時の香ばしい香りが強くなっています。



材料の変更に伴い、クッキーの型を色々と試してみました。牛や猫などは、しっほの細い部分が上手く抜けずに職員、利用者さんともに悪戦苦闘。今のところ、クマとパンダの型が比較的上手くできたので、試みに販売会などで売ってお客様の反応をみています。

食品加工班では、基本に忠実に、まじめな味を目指しています。新しくなったクッキーとパウンドケーキを是非、手に取って味わっていただければと思います。

## ワークショップくすのき 3号館

生活支援員 大久保 弘明

現在ワークショップくすのきは、昨年4名、今年からは新たに2名の利用者の方々を加え、職員11名・利用者31名の計42名で運営しております。私が入職した3年前より利用者も増えており、最初に感じていた不安も今では一人ひとりと仕事をしていくうちに期待や発見に変わり、楽しく仕事をさせてもらっています。



これまではワークショップくすのき1・2号館に分かれて作業していましたが、利用者の方が増えてきたことで活動場所も徐々に狭くなってきました。そこで、これまで相談センターいちいの木として使用していた建物を改修し、ワークショップくすのき3号館として生まれ変わりました。早いもので、3号館が始まって約2か月が経ちますが、最初は新しい場所での作業にそわそわとしていた利用者の方もすっかり慣れ、落ち着いて作業に取り組むことができるようになってきました。また活動場所が増えた事で、今後は現在の作業活動のほかに、身体を動かすことを目的とした活動を取り入れる等、新しいことも積極的に取り入れる事が出来たらと考えております。

まだまだ始まって日が浅い為、至らぬ点や改善点が多々あると思いますが、毎日利用者さんの笑顔が見られるよう努力してまいります。これからもご指導、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 相談支援センター いちいの木

センター長 菊田 賢一

相談支援センターいちいの木を始めたのが、平成24年の4月でした。事務所は、地主の青木さんの築50年以上の古民家を借り受けての事業開始でした。建物は昔懐かしい天井の高い古民家で、相談に来所された相談者からも「わー懐かしい、おばあちゃん家に帰ってきたみたい。」「何か、落ち着きますね。」と評判は上々でした。井戸水も出て、とても澄んだ水で癖のないおいしい水でした。夏はヒンヤリ冷たく、スイカでも冷やして食べたいと思えるほどでした。

開設当時、古民家の相談支援センターいちいの木の事務所は、長期事業計画のマスタープランの中で生活介護の事業所の規模を拡大し、事業展開するまでの間と聞いていたので、いずれどこかへ移転しなければならないと思っていました。

しかし、昨年法人の事業の見直しもあり、相談支援センターいちいの木も平成28年4月から事務所をくすのき苑の敷地内にある自立訓練棟の2階へ移転することになりました。新たな気持ちで相談者に寄り添い、一つ一つ丁寧に誠意をもって関わっていこうと思います。

事業所の場所は変わりましたが、これからも変わらずによろしくお願いいたします。

## 職員日記

生活支援員 清野 一行

先日、兄の結婚式があり、実家の青森で式が行われた為、実家へと帰省しました。久しぶりの帰省と、結婚式ということもあり、大勢の親戚が集まりとても賑やかで楽しい帰省となりました。

式は、とても感動的なものとなりました。前々から準備されていたであろう様々な余興に、手紙・ビデオ・ダンス等笑顔も溢れ、最後には涙を流す人まであり、とても思い出に残る式だったと思います。また、兄がとても大勢の人たちに支えられていたことを知り、今後の生活でもきっと大丈夫だろうと安心する事が出来ました。10年と長い交際の期間を経て結婚に至った2人なので、今後も幸せに生活していく事を願っています。

新郎新婦は忙しく参加出来なかったものの、親戚一同で行われた花火やBBQもまた、思い出に残るものとなりました。親戚が集まると、必ずと言っていいほど行われる恒例行事。花札をやり、トランプをやり、お酒を飲み…。2日間連続で行う事が出来ました。これもまた、みんなを集めてくれた兄夫婦のおかげだと思っています。自分もまた、微力ながら支えていければと思います。





## 5月12日～13日 1泊旅行 伊香保温泉

5月12～13日で伊香保温泉へ1泊旅行に行ってきました。とても清々しい気候の中、ロープウェイから自然を見下ろし、牧場に動物に触れあい、アーチェリーにも挑戦しました。ホテルでは貸切の温泉と、地元の食材をたくさん使った料理をお腹一杯食べました。  
沼田 浩史



## 5月21日～22日 1泊旅行 足利フラワーパーク

足利・日光方面に1泊旅行に行ってきました。1日目はあしががフラワーパークに行き、色とりどりに咲いている花、特に藤の花を見て癒されてきました。2日目にはいちご狩りでたくさんのいちごを食べてきました。おいしそうに食べる姿が見れて職員も満足でした。  
小島 優子



## 5月26日～27日 1泊旅行 福島スパリゾート

5月26、27日と福島へ1泊旅行に行ってきました。当日は快晴で、5月でしたが真夏を感じる2日間でした。旅の目的はスパリゾートハワイアンズでの圧巻のショーと贅沢な海の幸を食べること。2日間という短い期間では足りない楽しみの多い旅行でした。  
金 隆史



## 6月6日 日帰り旅行 大洗方面

6月6日、大洗へ日帰り旅行に行ってきました。大海原の波音を聞きながら海岸線をドライブし、リニューアルしたばかりの水族館で心癒され、お昼ご飯は贅沢に海鮮三昧。帰りはスタバでお洒落にフラペチーノし、のんびりと優雅な時間を楽しめた1日となりました。  
山田 宗成



## 6月17日 日帰り旅行 成田方面

6月17日、成田ゆめ牧場に日帰り旅行に行ってきました。バーベキューでは大きなベーコンやお肉をもりもり食べ、食後はみんなで牧場内を散策。動物と触れ合ったり、サイクリングをしたり思い思いに楽しみました。  
小澤 祐子



## 7月11日～12日 1泊旅行

7月に男性利用者5名のゆったり旅行に行ってきました。一日目はギネス記録にもなった牛久大仏。何とも言えない温かみを感じました。二日目は筑波山ロープウェイ。筑波山の山頂からは自然の壮大さを感じ、皆さん心も身体も癒されて帰ってきました。  
田嶋 剛宣



## 還暦のお祝い

5月に還暦を迎えた長江徹さんです。利用者の方・職員でお祝いをしました。赤いちゃんちゃんこを着た長江さん。照れ臭そうでしたが、とてもお似合いです。皆からお祝いのメッセージを貰うと、ニコニコとピースサインをされていました。



11月6日(日)

## くすのき祭

皆さん  
来てくださいね!

お祭りだよ～



## 流しそうめん大会

6月21日に流しそうめんを行いました。天気が心配されましたがお昼からは太陽が出てきてくれ、苑庭でにぎやかに楽しみました。利用者も流れてくるそうめんを上手にすくい、美味しそうに食べ、満面の笑みをたくさん見ることが出来ました。

## 行事予定・販売会予定

9月

健康診断、理事会  
1泊旅行、日帰り旅行

10月

3(月)法人全体会、内定式

11月

6(日)くすのき祭  
1泊旅行、日帰り旅行

12月

クリスマス会、忘年会  
12/28(水)～1/4(水)冬季帰省期間

施設連絡協議会販売会  
イオンタウン販売会

イオンタウン販売会

野田特フェスタ、関宿南部公民館まつり  
イオンタウン販売会 ミライフ祭り

イオンタウン販売会



## ● 編集後記 ●

暑さも厳しい日が続いていますが、外で活動した後の汗が気持ちよく、つつい外に出たくなっています。外に出たら後悔の念でまた室内に戻ってを繰り返している日々です。(伊藤)

夏は少し苦手ですが、夏の食べ物と行事は大好きです。スイカ、素麺、冷やし中華、バーベキュー…どれも夏の醍醐味ですね。今年も暑い夏を私なりに精一杯満喫したいと思います。(中山)

## いちいの会だより VOL.42

発行 社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑  
〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121  
TEL:04-7120-6667 FAX:04-7120-6668

発行人 総合施設長 清本 健二郎

編集 広報委員会 中山・伊藤・中嶋

発行日 平成28年8月1日

E-mail kusunokien@nifty.com

H P URL:http://www.ichiinokai.com/